

風と石と女 韓国 济州島 (J E J U) 一周サイクリング独り旅 紀行

2015年11月30日～12月05日 単独行

川崎 義文

ふと！思った。膝を痛めてちょうど一年になり、まだ完治していない、このままフルマラソンも沢登りもスキーも・・・ダメになるのか？・・・73歳を過ぎている、今後復活できるのだろうか？ そうだ！！今の内だ、やれることはやっておこう。チャリンコならペダルを漕げる、韓国は若い頃からお馴染みだが济州島は行ったことが無い。周囲約200kmこりゃ手頃だ・・・Jejuは八千代とほぼ同じ緯度だ、早く行かねば寒くなってしまう。思い立って直ぐに衝動的にH.I.S.で航空券を、AgodaCompanyで第一泊目の宿(¥1,843)だけをネットで確保・決済した。(11/26)

11/30 防寒具・雨具、その他細々したものを詰め込んだ機内持ち込み中型ザックだけが携行荷物だ。KA718 定刻10分前10:35にtaxig。ここ数年間、パラオ・グアム・モルディブなどNARITAを飛び立つとひたすら赤道を目指すルートが殆どだった。外房から海上に出ると退屈な海面を眺めるばかりだったが、今回は久しぶりに内陸を飛ぶ。外房から一度海に出たあと旋回し、今しがた飛び立ったNarita空港を眼下に見下ろして、我が家の上空辺りを通過する。苦勞して確保したA列シートからは房総丘陵、アクアライン・京葉工業地帯・君津の新日鉄など東京湾が一望出来る。東京のビル街・東京ドーム・・・三浦半島、江ノ島、丹沢・・・やがて富士山が左方眼下に広がる。お鉢がクッキリと。富士五湖を過ぎる。身を乗り出して窓から直下を見れば白く染まった曲線がある、たぶん聖・塩見あたりの稜線であろう。畑薙湖が光り輝いている。三河湾・伊良湖・名古屋の賑わい・を過ぎ、紀伊半島山並みの墨絵の如き風景を楽しみ、琵琶湖南部をかすめ飛び琵琶湖大橋・瀬田の唐橋が見え、昨年のピワイチ自転車・単独ツアーが想い起される。京都・大阪・・・KIXが・・・。明石大橋に繋がる淡路島の右方に微かな直線がある、鳴門大橋だ。その近くの我が実家はあと千倍ぐらい太きければ識別できたろう～。広い平野が現れその北方に小高い丘があり麓に広い大きな四角に区切られた地域がある。岡山大学キャンパスだ。今も尚、優秀なわが後輩どもが講義と講義の合間の短い時間のうちに教室から教室の長い距離をオンボロ・チャリンコでギーコギーコ摩擦音を軋めながら移動していることだろう。瀬戸大橋群、手前の水島コンビナートはさすがに岡山大学キャンパスよりも広い。対岸は四国高松だ。我が岡大時代には瀬戸大橋はまだ架かっていなく、眼下の多島美・備讃瀬戸を「国鉄」宇高連絡船で鳴門岡山を行き来したものだ。瀬戸内の多島美が延々と続く。対岸は香川県から愛媛県に移っている。山並みの中に石鎚山が比定できる。もしや？と、ガラガラ席を反対側G列に移動し北方を眺めたが伯耆大山は雲に覆われ視界なしであった。広島・宇部と続き、やがて国東半島の真ん丸い地形が現れる。関門海峡は機体の真下のような。遠方に大仏が寝そべっているような山並みがある、阿蘇山だろう。北九州工業

地帯の煙突群を過ぎ玄界灘に至ると、雲が広がってしまった。懐かしい福岡も見えない。壱岐島辺りの島影が雲間に見えたが、すぐに雲上の飛行となった。まるで日本の西半分を丸ごと御披露して頂いて幕を閉じたようだ。あと 30 分ぐらいか！着陸態勢に入ったとのアナウンスあり。此処までビール 3 缶を御馳走になる。国内便と同じぐらいの飛行時間で 3 缶とはチョット凶々しい、でもナッツ姫よりも迷惑をお掛けしていないだろう。———
———斯く斯く云々、初日にして日本西半分の大空観光旅行をタップリたっぷり楽しんだ。旅行の移動中で窓際を厭い、狭い機内のど真ん中でひたすら時間の経過を苦々しく待つ方々が数多居るが、その心情が私には理解できない。そう云う人は観光地に着けば、わざわざ ン！万円支払って 30 分間高度・たった数百メートルの「遊覧飛行」にいそいそと搭乘する人であろう。 ～～～長々と 閑話休題

12:45 着陸態勢。ハルラ山が雲の上に頂上を見せている。雲の下に入ると大きな都会が出現し 13:10 Landing。預け入れ荷物が無いので入国審査後直ぐに空港ロビーでチェジュ (Jeju) 全島の地図数種類を入手して 100 系統のバスに乗車し東門市場バス停で下車(12:50)、訊ねる事 2 回にしてネット予約済の「the Forest Hostel & Guesthouse」にチェックイン (13:00)。フロントでレンタル自転車の店を教えてもらい、観徳亭の背後・済州北小学の裏手の少々判りにくいお店に至る (迷わなければ Forest から徒歩 10 分弱)。パスポートのコピーを取られ、(20,000W x 4 日) x 0.9 = 72,000W を支払う。しっかりした立派なクロスバイクだったが、スタンド無し・ライト無し・警笛ベル無し・荷台荷物バック無し、で少々不便を感じた。慣れない自転車・慣れない交通ルール・慣れない道路事情で恐る恐るお宿に帰り、お宿の物置にチャリを収納し、J E J U 第一夜を宿から徒歩 2 分、名高い「東門市場」に繰り出す。太規模な「庶民市場」であり、旅行者観光客にはそぐわない生もの魚介類・野菜その他日常食品のお店が縦横斜めに広がっている。出口入口を見失わないように何度もランドマークを確認しながらブラつく。取り敢えずは買物はない。‘薄汚い’ 食堂で臓物トンチャンのお粥とメクチュを注文した。旨い。合計 10,000w。ビール一瓶 4,000w のようだ。コンビニで韓国産メクチュは 1800w ぐらいだ。

ドーミトリー形式 ¥1,843 のお宿だ、豪華なはずがない、でも 2 段ベッドの一段目の寝心地は快適だ。同室のカルフォルニア若者とのたどたどしい交流も楽しみ、そのうちに Z, Z, Z, Z,

12/01 06 時起床。さーて、何を持ってツーリングに出かけるか？迷いに迷って最小限の装備に絞る。腰に巻くホシュットには旅券・現金・クレジットカード、ザックには防寒具・防寒下着・雨具 だけ。 その他の荷物はツーリング後、再度ここに宿泊する旨を告げてデポジットさせていただくことにした。宿賃に含まれる珈琲紅茶、パン・バター・ジャムだけの朝食をチョットだけ腹に入れて、いざ！スタート 07:45
観徳亭を通過、海岸に出る。左は済州国際空港で早くも頻繁に飛行機が発着している。右側の海岸は私にとって異様な情景だ。真っ黒なゴツゴツした岩が間断なく海に突き出してお

り、赤道近くの島々の優雅なサンゴ礁・ラグーンが醸し出すグラデーションの華やかさが全くない。ハルラ山の溶岩がこの島の海岸を覆い尽くしているのだ。でも、その荒々しさ・獐猛さが以後の旅の友達になり親しき風景に変わってしまったのだ……

西へ、西へ。 濟州島には一周道路（1132号・幹線）があり、それを更に海岸沿いにへばり付き海岸すれすれをなぞっている「海岸道路」が所々に枝分かれする。その海岸道路を忠実に辿って涯月・翰林を快適に走る。海岸線を素直になぞらって行くので曲がりくねっての道になるが、登り坂下り坂はあまりない。左手・内陸方面にはハルラ山が遠望できる。大静辺り・hamo-riのマーケットで昼食とメクチュを摂る。今日2本目のメクチュだ。一本目は金陵里のコンビニの店先で呑んだが、お店の女将に自転車乗りがメクチュを呑んではダメだ、と叱られた。海岸道路を松岳山に大回りして、山房山麓を走る。あれ！海岸線から離れてしまった。一周道路を走っているようだ、海岸に出ようと、とある大きな右折道路に進む。広い・交通量の少ない長い長い下り坂を時速50kmも出たであろうか、約10分で海岸線のT字路に出くわす。右に行けば元の方向、迷わず左にハンドルを切れば数分で大きな工場の嚴重な正門に突き当たり、嚴重な監視員門番に観ら睨みつけられ退散する。どうも此処は「原発」らしい。元の一周道路に復帰するのに約1時間の余分なアルバイトを余儀なくされた。復帰後は内陸部が故の凹凸の多い長い長い退屈な幹線道路の走行になる。17時になっても西帰浦の町並みが現れない。濟州ワールドカップ競技場を過ぎても、格安お宿があるような雑踏地域が現れない。薄暮になる。1131沿道の小綺麗なケーキ屋さんに飛び込み、何処か格安お宿の在処を問うと懇切丁寧にスマホを駆使しながら至近のゲストハウスを教えてくれた。だが、そのゲストハウス「白鯨」に至るには更に2回2軒の飛び込み問い合わせをしなければならなかった。もう～真っ暗。チャリには灯りが無い。白鯨は人里離れたミカン畑の中にある。2段ベッド2人用の部屋だ、と云うことで40,000Wを要求されたが文句を言う元気もない、云うがままに了承してベッドに横たわる。夕飯を喰っていない、此処がどの辺かもわからない。夕飯は諦めて、ダンボール箱に捨てられている？タダのミカンを戴いて、夕食の代わりとする。10個ぐらい喰って、足りないので更にミカン調達すべく階下に下りてゆくと別の部屋の宿泊者がマッカリを呑みながら歓談している、親切なお誘いを受け参加する。金さん、権さんのご配慮で、濟州ワールドカップ競技場の隣・e-マートまでクルマで連れて行っていただき、夕食弁当を買う。お礼にビール・マッカリ・オツマミを買うが、彼らもたくさん買物をして、帰ってからゲストハウスで大いに話が弾んだ。——金さんがスマホを私に突きつける、何かシャベレとの仕草だ、日本語で、コンバンワ、カワサキと申します……と喋り始めると、流暢な日本語で応答がある。ソウルに居る金さんの妹さんで、以後、金さんの妹さんの携帯電話での通訳で話が益々賑わった。彼等との顛末は帰国後のe-MAILのやり取りがある。思わぬ宿探しの苦勞、そして思わぬ親切なKorean若者との交流……旅とはいいものだ！



Guesthouse White Whale 前にて



金さん (右)、権さん (左)

くボカシを入れましたが、ご兩人とももの
凄いハンサムな若者なんですヨ！>



記念記帳



二日目 出発



「Guesthouse 白鯨」全景

12/02 快眠。パン・卵スクランブル・珈琲の朝食後、金さん権さんの見送り・励ましを受けて出発。今回もこの機会だけ写真が残った。ここ数年の海外旅行での写真は皆無である、少々例外があるが・・・ 天気薄曇り無風、絶好のサイクリング日和だ。白く輝くハルラ山が左手に見える。相変わらず海岸は真っ黒なゴツゴツした溶岩流のナレの果てが続く。今日は50数キロだけだ、のんびりペダルを漕ぐ。天候は悪化の兆候だがしばらくは大丈夫だろう。温平里辺りの風光明媚な海岸でメクチュを呑(や)る。相変わらず真っ黒な溶岩流が海に流れ込んだそのままの情景だ。水際までは十数メートルから数十メートル

ルある。処々に釣り人を見掛けるが、あそこまでさぞかし歩みにくい事だろう。

12:30 城山市街着。昨夜の轍を踏まぬよう直ちに宿 (SANTIAGO)に投宿する (₩20,000)。荷物とチャリを預け、徒歩 5 分の登山口から城山日出峰に登る。コンクリート道の後、急峻な木製階段を登る事 20 分、あっけなく頂上に着いた。特異な火口跡と四方に広がる絶景を暫し楽しんだ後、下山専用階段で麓に下りてレストランに入る。マッカリをちびりちびり呑みながらハングル Only のメニューを眺めたが、どうもこの店は「刺身」専門らしい。Jeju では刺身が一番の人气で一番おいしいと聞いていたが、やはり異国での生ものは敬遠した。マッカリ 1 瓶で 30 分も居座ったイルボンに奇異な眼差しで送り出された。マッカリはメクチュより安い。韓国の悪しき風習・・・食べきれないほどのキムチ・ナムル・唐辛子大根・・・がマッカリにも付いてくる。勿体ないかぎりである。Jeju 滞在中の食事、飲酒の毎に感じる不合理である。食べきれないほど料理を出すのがマナーという悪しき慣習が未だに続いている。日没後、狭い城山市街をほつつき歩き、黒豚等の焼肉をメクチュと共に味わう。注文外の「件のツキダシ」が添えられ事、件の如し。深夜、目覚めると一室 6 ベッドが満員になっていた。ソウルからのチャリンコ若者が遅く到着していたのだ、なかなかの礼儀作法を心得ている。

12/03 今日は約 50km、途中観光の予定もなく昼前にはチェジュ市/the FOREST に着いているだろうと高を括っていた。パン・バター・ジャムなど軽い朝食を摂る。この島のこの時期、島全体が黄色く見える。特に昨日一昨日走ってきた南部はミカン畑で覆い尽くされている。沿道にはミカン即売所、ミカン集積所等の建物が並んでいる。チョットした傷物はタダで持って行っても良いようだ。今朝の朝食にはオレンジジュースが入った大型ポット 2 本が据えられていた。08:10 お宿・SANTIAGO 発、海岸道路を北西に進む。横風を受け始める、天候悪化。でも今日の行程は軽い軽い、と未だ今後の展開は想像だに出来なかった。島の北岸に達して海岸道路は真西に向かう。風が強くなり真逆のアゲインストだ。益々風が強くなる。遠方に風力発電のプロペラ群が林立している。と、云うことはこの辺は風の通り道か!!! 下道・細花辺りから風車は海岸道路沿いに・寄生火山の山麓に・そして海上にまで林立するようになる。強風から烈風に変わる。ペダル走行は不可能で自転車の「押し歩き」になるが、押し歩きも前進出来ない颯風並みだ。雨が強くなり雷鳴が轟く。バリバリバリとアラレかヒョウか、ヘルメットを叩く。時折ビーチと称する黒い溶岩流ではない白い砂浜の地域があるが、お店は全てクローズだ。抜きつ抜かれつしていた若者は、とうとう新再生エネルギー広報館の大きな建物に逃げ込んだようだ。この広報館はこの地区の風力発電を主題にしたものだろう。今現在の烈風を「恩恵」として喧伝しているのだろうが、anti-clockwise で Jeju 島一周をしているイルボン 73 歳の身にもなってもらいたい! 厄病神・悪魔のような風である。そうか、「風」と岩と女・・・それが J E J U・・・なるほど。

もう～初志貫徹できぬ、海岸道路から一周道路に逃避して金寧らしき処で昼食を摂る(12:00

～12:45)。メクチュ・ギョウザ・他お定まりのツキダシ多数大量)。雨・向い烈風が続いている。店の壁に立てかけたスタンド無しのチャリを渋々起こして一周道路を西に向かう。ペダルを漕いでも歩行するよりも遅い。登り坂は押し歩き、下り坂でも一所懸命ペダルを漕がねばならぬ逆風だ。頭部はヘルメット、上半身は雨具、下半身は通常のズボンのみ、まあ～謂わばずぶ濡れ状態だ。烈風ながら冷たくなく防寒下着を着込んでいるので寒くはない。前進するエネルギー発熱のため、汗だくッテいう感じである。

単独行でよかった、この状態でチームを組んでいれば激しく意見の相違がでてきたであろう。不合理でも自分勝手に判断できる・・・Jejuの神々よ、我に艱難辛苦を与え給え・・・自虐のように行程を進める。風力発電プロペラは数100基・20数kmに亘り林立していたように思われる。

15:20 the Forest 着。今晚と明晩の宿泊費w20,000 x 2を支払い、デポ荷物を受け取りドームトリーのベッドに座り込む。チャリを返却しに行く前に荷物の整理をしておこう、と腰のポシェットを外し、チャリの荷台に括り付けたマクラ大の荷物を解き、お宿デポ荷物のトートバックを開き・・・背中の「ザック」を？ あれ！無い。お宿レセプションに置いてきたか？下って探して訊いたが・・・矢張り無い。ああ～惚けてしまったか！背中に手を廻してみても、背中を鏡で見て・・・無い。ハタと思いついた！金寧辺りの食堂でザックを外し椅子に置いた、そしてそのまま出立したのだ！下着・防寒下着・シャツ・防寒具・雨具、と達磨さんのように着膨れしていたので中身の少ないザックなんて布っきれ一枚のよう存在感はなかったのだ。

ウワッ！大変だ、ポッシェットを開く。旅券がある、クレジットカードがある、現金がある・・・涙が出るほど安堵した。そしてつらつら考えみるにザックには雨具のズボン部分・カミソリ歯ブラシ・タダで貰ったミカン十数個、ミカンの食べかす皮十数個分ぐらいしか入っていない。数えあげているうちに、チョット価値のあるのは歯ブラシ同梱の差し歯（入歯）だけである、と判り安心した。

しかし、それからは私の不甲斐なさひしひしと身を責めてくる。もしパスポートが！と単なる僥倖で助かっただけではないか！・・・以後、自分のチョンボを重く捉える気持ちになり、何が何でもザックを回収しようと決心した。実は、ボロボロだが都岳連の刺繍が縫われているあの中型ザックに愛着があったからだ。レンタサイクル屋に赴き一日延長（w18,000）で再借出し、the Forest で暫し寛ぐ。東門市場に繰り出しお店を冷やかす、飯屋で何かかわからぬ美味しい物とメクチュとマッカリを楽しむ。注文外のツキダシの多い事、その辛いこと、その無駄な事・・・

ドームトリー形式のベッドで苦悶する。明日の自転車ツーリングはどうなるのだろうか？何処の？どの辺の？どの店で？昼飯を喰ったのか？12時ごろだと判っているが・・・本当に其処にザックを置き忘れたのか？・・・親切に保管してくれているのだろうか？・・・

一旦、心に決めた事だ、明日はチャリで引き返すのだ、都岳連刺繍のぼろザックを回収に走るのだ！ 単独行でよかった。ぼろザック回収のために一日を私個人の為に費やすのだ

から。 旅券無事、CDカード無事、現金無事 本来なら安心しきっていいはずなのに・・・悶々の内に z z z z z z。 マナーを心得た韓国若者が同宿。

12/04 ハルラ山登山は済州入国直後から止めにしている。今日はボロボロ中型ザック回収のための自転車ツーリングだ。パン5枚・ジャム・珈琲の朝食を今朝はタップリ腹に納めて、08:00 スタート。勝手知ったる東門通りを登り、一周道路 1132 を東行する。昨日よりも少しだけ弱い相変わらずの強風の所為でペダルを踏まなくても今日の目的地らしき方向に進んで行く。昨日、体重のすべてをかけて進んだ道を、追風でスイスイと・・・左方・海岸側を注視しながら枝道の海岸道路を観察する。エイ！ままよ！踏ん切りをつけて枝道に左折する。数分で街並みのデジャブあり更に数分で飯屋玄関にデジャブあり。10:30 開店前のお店の扉をコンコン叩くと準備中のアガシがすぐに反応してくれ、我が貴重なぼろザックを手渡してくれた。私は日本から持参していた辞書で、「昨日」「昼飯」「忘れ物」「リュックザック」「取戻し」「お願い」「カムサハムミダ」など調べてハングルで書きとめていたのだが、全く必要なかった。お礼を云うにも間がなく、アガシは開店準備で忙しそうでザックを私に押しつけるようにしてお店の奥に去ってしまった。

苦しみ・心配事がなければ、楽しみ・安楽はない。金寧からの復路の楽しい事楽しい事、相変わらず西風・強風・向風だ。でも昨日みたいに烈風ではなく曇空ながら雨は降っていない。昨日は逃げて避けた「海岸道路」を隈なく踏破する。沿道に・山麓に・海上に林立する風車プロペラの回転は今日の私には激励の所作に見える。たったボロのザックと入歯を回収しただけのツーリングではなくなった、今回 Jeju 旅行の最高傑作の行程だったかも知れん。これも単独行のお蔭か？・・・嵐の中を走る事ねえじゃねえか！ぼろザックなんて諦めてしまえ・・・の聲が聞こえる。

昨日、端折ってしまった海岸を綿密に嘗め廻して 13:10 三泊目の Forest に帰着する。自転車を返すのにはまだ早すぎる、チャリで市街観光としゃれこもう。三姓穴史跡はなかなかの雰囲気がある。伝記説話には日本ではなく「耽羅」の表記だった。説話の内容には仄かな秘めた艶っぽさがありオオラカナチェジュの風情を味わった。竜頭岩はチェジュを取り巻く 253km の海岸線の何ら変哲もない溶岩の塊の一つに過ぎない。竜頭岩から西へ 500m、海岸道路の一角で 100m 真上で数分間隔で着陸する飛行機を見上げ続けた。飛行機バカの私・川崎ナリ。

チャリを返却して、東門市場をぶらつく。最後の夜だが、もう見飽きた。寝る z z z z。

12/05 Jeju 離陸は夜だ、nothing to do。市内見物のため 200 番バスで国際空港まで行く。S氏A氏F氏O氏がもし興味を示せば・・・とMAP類を収集し、飛行機の発着シーンを眺めながら時間を潰す。100 番バスで theForest に帰り最終的にチェックアウトして、東門市場でお土産を購入する。成田まで・自宅まで 2 時間強だから半生乾きの分厚いスルメ烏賊と魚干物を大量に調達しビニール袋で厳重に梱包する。その魚屋さんの店頭にも小さいミ

カンが段ボール箱にうず高く積みまれており、勝手にもってゆけと勧められる。Narita での通関が心配だったが、50 個ほど袋に詰めて持って帰ることにした。竜頭岩近くの e-マーケットで更にお土産を物色するが、Jeju 特産ッテのは無い。対面の刺身専門飲食街で、麺類を食べる。次回来ることはがあれば、刺身をタップリ喰おう！

济州国際空港で長い無聊な時間を過ごして、K A 717 便 19:00 発 Narita 21:10 着で帰国。帰国便はたった 50 人ぐらいの乗客でガラガラのガラガラ。K A L、件のナツツ姫が乗機しておれば営業担当は即刻グビになっていたろう。

Narita からは A 列がいいのは前述。Jeju から Narita への帰路は同じく A 列の窓際が良からう。帰路は少々南側を飛行するので、西日本全体の「夜景」が楽しめる。

独り旅の自由を満喫した。

再度、訪れたい。その際は 刺身、生ものをタップリ賞味しよう。

★「J E J U D O」 チェジュ島 济州島

海岸線周囲 2 5 3 k m

一周道路 1 8 0 k m

海岸道路 約 2 0 0 k m

1 日目 济州市～涯月～金陵～大静～松岳山～山房山～中文～西帰浦 9 0 . 6 k m

2 日目 西帰浦～南元～表善～城山 「城山日出峰登山」 5 4 . 4 5 k m

3 日目 城山～下道～細花～金寧～朝天～济州市 5 2 . 4 3 k m

T O T A L ————— 1 9 8 k m ————

(4 日目 济州市～金寧～(海岸道路)～济州市 忘れ物回収の走行 往復≒ 5 0 k m)

★費用概算

济州島一周自転車旅行 費用概算

航空券	¥26,000	at Japan
国内空港使用料	¥2,610	at Japan
その他諸税	¥3,660	at Japan
取扱料金	¥540	at Japan
小計	小計 ¥32,810	
海外旅行保険	¥3,320	at Japan
11/30 宿泊予約 Forest 济州市	¥1,843	at Japan
12/1 宿泊 White Whale 西帰浦	¥4,400	←w40,000
12/2 宿泊 Santiago 城山	¥2,200	←w20,000

12/3 宿泊	Forest 濟州市	¥2,200	←w20,000
12/4 宿泊	Forest 濟州市	¥2,200	←w20,000
レンタルサイクル	w18,000x5 日	¥9,900	←w90,000
食費・メクチュ代・交通費など		¥15,000	←w138,143
お土産代		¥5,500	←w50,000
((日本へ持ち帰りWON))			(w79,000)
費用合計		≒ ¥80,000 円	

(完)